

Quality is more than a word



CSR Report

Corporate Social Responsibility Report 2011

編集方針

- エスペック株式会社の発行するCSRレポートは、当社が果たすCSR(企業の社会的責任)をステークホルダーのみなさまにわかりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的に発行しています。
- 本誌では、ステークホルダーのみなさまや社会の関心が高く、なおかつエスペックにとって重要な取り組みから内容を選択して企画・編集しました。特に重要と考える取り組みについては特集ページにて取り上げました。
- 企業活動の報告に関しては「CSRマネジメント」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3部構成としています。
- 本誌中のWEBは、当社ホームページ上で関連情報を開示している旨を示しています。
エスペックホームページ : <http://www.espec.co.jp/>
- 経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料をご覧ください。

対象範囲

【事業所の対象範囲】

エスペックグループの主要な関係会社・事業所を対象としています。ただし、すべての項目についてカバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

【事業の範囲】

当社の事業は、環境試験器、計測システム機器、半導体装置、FPD装置などを開発、製造、販売する装置事業、これら装置のアフターサービスやエンジニアリング、受託試験などのサービス事業、その他事業であり、これらの事業活動全般について報告しています。

【対象期間】

主に2010年度(2010年4月1日~2011年3月31日)を対象期間とし、過去より継続して実施してきた内容および直近の内容についても掲載しています。

準拠したガイドラインなど

- ・ 環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
- ・ 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
- ・ GRI(Global Reporting Initiative)
「GRIガイドライン第3版(Sustainability Reporting Guidelines version 3.0)」

発行時期

毎年10月発行

CONTENTS

| | |
|----------------------------|----|
| THE ESPEC MIND (企業の価値観) | 02 |
| TOP MESSAGE | 03 |
| エスペックの事業 | 05 |
| 特 集 | |
| 1 クリーンエネルギーへの取り組み | 07 |
| 2 次世代植物工場の研究に参加 | 09 |
| CSRマネジメント | 11 |
| 社会性パフォーマンス | |
| お客さまとのかかわり | 13 |
| 従業員とのかかわり | 15 |
| 取引先さまとのかかわり | 18 |
| 株主・投資家さまとのかかわり | 19 |
| 地域とのかかわり | 21 |
| 環境パフォーマンス | |
| 環境マネジメント | 23 |
| グリーンプロダクト (環境に配慮した製品とサービス) | 27 |
| グリーンプロセス (環境に配慮した工程) | 29 |
| グリーンマインド (環境教育) | 30 |
| グリーンアクション (社会貢献) | 31 |
| 事業活動のマテリアルバランス | 33 |
| 実績データ | 34 |
| 環境会計 | 35 |
| 会社概要 | 36 |

創業当時から脈々と伝わる大切な価値観を
THE ESPEC MIND として体系的に取りまとめ、
あらゆる意思決定や活動の指針として企業活動を行っています。

起点

公器として、より高い価値を交換すること 企業の存在理由

そもそも企業とは公器であり、人々や社会の期待に応えるために存在するものです。エスペックも同様、「より確かな生環境を提供すること」を社会的使命として存在しています。さらに、ステークホルダーとの価値交換をより良いものにしていくことが社会的装置としての価値を高め、人々の幸せ実現の一助となると当社は考えています。

使命

環境創造技術でより確かな生環境を提供 エスペックが追求すべき永遠のテーマ

エスペックは「環境創造技術」を核とする事業で、「より確かな生環境を提供すること」を使命としています。生環境とは、すべての生き物が生きていくための環境、あるいは目的を持って作られた機器がその機能を十分発揮できる環境のことです。生環境という言葉は私たちが自らつくり出した言葉です。それはエスペックの事業が独創的であるからにほかなりません。

スタイル

プログレッシブ

ミッションの実現に向けた企業姿勢

エスペックの企業活動のあるべき姿、それは「プログレッシブ（進取的）」です。かつて先達が「環境試験器」という言葉もない時代にそのニーズを察知し、事業のかなめとしたように、プログレッシブであることは当社が大切にしてきた企業姿勢であり、次代に受け継ぐ伝統でもあります。プログレッシブと共に、リアル（誠実な）、オープン（開放的な）、フェア（公正な）といった企業姿勢も大切にしています。

宣言

エスペックが社会に約束すること 良き社会の一員としての誓い

企業活動の範囲が拡大するなかで、順守すべきものや尊重すべきものが明確になってきました。それらは「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」です。例えば、「遵法」という考え方において、私たちは法を犯さない範囲であれば何をやってもいいという訳ではありません。法の上に社会的な良識や人々の考えといったものがあり、当社はその領域で活動を行います。また、国や地域が異なれば倫理規範などの解釈に違いがみられることがしばしばあります。その場合はより社会性が高い活動を選択することとしています。

「文化」「人権」「環境」「啓発」においても同様に、これらの事柄を積極的に守り、育てる決意を「宣言」というかたちで社会に表明し、実践しています。



ステークホルダーのみなさまへ

2011年4月1日に代表取締役社長に就任いたしました石田でございます。

この度の東日本大震災により被害を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

未曾有の大震災により、当社におきましてもさまざまな課題が発生しましたが、工業製品の信頼性に欠かすことのできない環境試験器を提供しているトップメーカーとして、その使命を果たすために最善を尽して参りました。サプライチェーンが寸断するなか、製品・サービスの安定供給に尽力し、被災されたお客さまが一日でも早く稼働できるよう、震災の翌週より当社のフィールドエンジニアが装置の無償点検を実施いたしました。今夏の電力供給不足に対しては、当社装置をご使用の際の節電方法をパンフレットにまとめて提案し、ご活用いただきました。

この震災で私たちは、人と人のつながりや絆の大切さ、お互いさまの心や秩序と調和を大切にす日本文化の素晴らしさをあらためて実感いたしました。私たちエスペックはこうした人と人との絆、つながりがステークホルダーのみなさまとの関係においても基本であると考えております。

企業は社会的システムとして人々や社会の幸せ実現を支援していく存在です。ステークホルダーのみなさまとは良質な価値交換を通じて期待に応え続けていくことこそが、私たち企業が社会に存在する理由です。この「価値交換性の向上」はエスペックの最も基本的な思想であり、THE ESPEC MINDの中に明記されています。私たちはこの理念を軸とした経営、企業活動をさらに推し進めて参ります。

また、環境経営にも引き続き注力し、従来から取り組んできた省エネルギー製品の開発、CO₂排出量の削減、生物多様性への取り組みに加え、今般の電力不足への対応を一層強化して参ります。そして、当社の環境創造技術でグリーンイノベーションを牽引し、持続可能な社会の実現に向けてさらに貢献して参ります。

エスペックが新しい社会にとってなくてはならない存在となるよう、これからもステークホルダーのみなさまの期待に全力で応え続けていく所存です。

代表取締役社長

石田 雅昭



六甲山の研修施設にて、THE ESPEC MIND 研修会開講の挨拶



参加者に熱いマネジメントメッセージを伝える



THE ESPEC MIND 研修会で議論に参加する石田社長

ESPECの事業

企業には自ら選択したテーマで社会に貢献する責任があります。
エスペックは「環境創造技術をかねめとした事業で、より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。環境試験器のパイオニアとして半世紀に渡り、最先端技術の発展と信頼を支え続けています。

環境試験の総合ソリューション

私たちの生活は、最先端の技術を駆使した製品や電子機器に囲まれています。新技術が次々と製品に組み込まれ、製品はより高度化し、複雑化しています。こうした中、製品や部品の信頼性を確保する環境試験の重要性はさらに高まってきています。当社は、最先端技術の発展に欠かすことのできないこの分野において、試験装

置の提供、受託試験、そして製品のメンテナンスはもちろん、製品レンタルなど環境試験の総合ソリューションを提供しています。私たちの事業領域は広く、自動車や電子部品、薬品、食品のみならず、太陽電池や二次電池など、クリーンエネルギーの分野にも及んでいます。

● 環境試験装置

温度・湿度・圧力・振動など環境要因を人工的に再現し、工業製品の信頼性や耐久性を確認する環境試験器を、多様な用途に合わせて豊富な製品群で提供しています。



恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ

● 受託試験サービス

お客様の試験の設計・実施から分析・評価、結果に対する改善、提案までトータルなサービスを提供しています。



● 計測システム機器

パワー半導体などの電子部品の性能を評価するために、試験の条件設定から試験の評価・分析を自動的に行うシステム機器を提供しています。



イオンマイグレーション評価システム

● ディスプレイデバイス装置

FPD(フラットパネルディスプレイ)の生産ラインで使用される焼成・乾燥などの熱処理を行う装置を提供しています。

● クリーンエネルギー関連装置

太陽電池パネルの信頼性確保や二次電池の開発・生産・検査で使用される装置を提供しています。

● 半導体関連装置

半導体などの電子部品に高温で電圧・電流のストレスを与え、短時間で不良品を見つけ出すバーンイン装置を提供しています。



ダイナミック/モニタードバーンインシステム

● 植物工場事業

無農薬で安心な野菜を計画的に栽培できる植物工場を提供しています。環境創造技術を駆使した植物工場は、食の安全が懸念される昨今、国内だけでなく海外でも特に注目されています。

● 自然環境の復元・創造事業

日本由来の植物を植える自然の「森づくり」、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、生態系という視点から自然環境を復元し、創造する事業を行っています。



ESPEC EUROPE GmbH(Germany)

愛斯佩克環境儀器(上海) 有限公司

広州愛斯佩克環境儀器 有限公司

ESPEC KOREA CORP.

エスペック株式会社

愛斯佩克測試科技(上海) 有限公司

上海愛斯佩克環境設備 有限公司

ESPEC (CHINA) LIMITED

ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN. BHD.

ESPEC NORTH AMERICA, INC.

- グループ企業
- 海外販売ネットワーク

グローバルな総合力

当社は、環境試験市場で高いシェアを誇り、優れた品質と技術力で世界中のお客さまから長年にわたって信頼を得ています。お客さまのニーズをできるだけ深く追求し、それに応えると同時に、お客さまの創造性をさらに高めるサービスの提供を心がけています。こうした努力が当社を世界から信頼されるブランドに育てるのだと確信しています。

また、当社は世界中のお客さまにクオリティの高い製品やサービスをお届けするために、国内外の販売ネットワークと世界各国に9つのグループ企業を設置しています。海外のお客さまにも当社製品を安心してご使用いただけるサービスを提供しています。



本社
大阪市北区天神橋3-5-6



福知山工場
京都府福知山市長田野町1-7

| | |
|-------------|-----------------|
| ●国内代理店 | 48社 |
| ●海外販売ネットワーク | 38カ国 32社 |

小惑星探査機「はやぶさ」 世界初の快挙に環境試験技術で貢献しました。

7年間の宇宙の旅を経て、世界で初めて小惑星から物質を持ち帰った探査機「はやぶさ」。2010年12月2日、宇宙開発担当大臣と文部科学大臣より、宇宙航空研究開発機構(JAXA)のはやぶさプロジェクトチームとそれを支えた118機関に感謝状が交付されました。

エスペックも「はやぶさ」功労者に選ばれ感謝状を拝受しました。これからも当社は、最先端技術の発展と信頼を支え続け、数々のチャレンジと人々の夢や希望を叶える企業でありたいと願っています。



提供：池下章裕

クリーンエネルギーへの 取り組み

クリーンエネルギーの創出に環境創造技術で貢献します。



太陽電池パネル提供：高信頼性太陽電池モジュール開発・評価コンソーシアム

グリーンイノベーションへの対応

地球温暖化問題に加え、福島原発事故で世界は今やグリーンでより安全なエネルギーの創出に関心が高まっています。また、化石燃料の無制限な消費が不可能となった今、省エネルギー化や使用しないエネルギーを蓄えるための取り組みも進んでいます。グリーンイノベーションと呼ばれる環境やエネルギーに関する技術革新が求められるなか、当社も、環境創造技術で貢献してまいります。

高信頼性太陽電池パネルの研究開発への取り組み

再生可能エネルギーの中でもっとも注目を集めているのが、太陽の光を電力エネルギーに変換する太陽光発電です。当社は、公的研究機関・産業技術総合研究所主催のコンソーシアムに参加し、太陽電池パネルの信頼性向上と長寿命化の研究を行っています。太陽光発電は建物だけでなく、電気自動車にも組み込まれようとしており、より普及させるためには発電効率の向上や製造コストの削減とともに、信頼性向上と長寿命化が重要な要素となります。当社はこの研究開発に2009年より参加しており、最先端技術が集積する太陽電池パネルの信頼性向上に貢献しています。

太陽電池パネルの割れや劣化を確認する信頼性試験では、当社のさまざまな装置が使用されており、当社の環境創造技術が新しいエネルギーを創出する分野でもお役に立っています。



中型恒温(恒湿)器

● 第三者製品安全試験認証機関 UL Japan に納入
太陽電池パネルの認証試験にエスペックの装置が
使用されています

UL (Underwriters Laboratories) は1894年に米国で設立された第三者製品安全試験認証機関です。株式会社 UL Japan は、UL の日本法人として製品の安全試験・認証等を行っており、25カ国以上に広がるULグローバルネットワークを活用し幅広くサービスを提供しています。UL Japan が2010年に開設した三重県伊勢市の太陽光発電システム用試験所に、当社のグループ企業である米国・ENA (ESPEC NORTH AMERICA, INC) 製の装置14基が設置されています。エスペック製品を使用して太陽電池パネルの耐久試験など長期の環境試験が行われています。



株式会社 UL Japan の試験所内 Walk-in Chamber (ENA製)

環境負荷低減に向けて期待の高まるリチウムイオン電池

エネルギー密度が高く小型で軽量な特性を持つリチウムイオン電池は、携帯電話やパソコン、実用化の進む電気自動車に搭載されています。また、電力を必要なところに必要だけ供給し、電力の無駄をなくすスマートグリッドでも、太陽光発電などで創った電気をいったん貯蔵するために蓄電池としてリチウムイオン電池が使われます。環境負荷低減社会の実現に向けて需要の拡大が予想されるリチウムイオン電池。この研究開発から生産・検査まで当社の製品が使用されています。



二次電池
充放電サイクル評価システム

省エネ化を促進するパワー半導体
エスペックの装置で性能確認

省エネルギー化の促進に欠かせないパワー半導体。電気を直流から交流に、あるいは交流から直流に変えたり、電圧を上げたり下げたり、電力を効率よくコントロールする半導体のため、エアコンや冷蔵庫などの家電製品や電気自動車に使われています。省エネルギー社会に貢献する半導体として、今後ますます私たちの身近な製品や工業製品への搭載が予想されます。このパワー半導体の不良を発見しそれを取り除くために、高電圧という環境の中で電気性能を確認する環境試験に、当社の製品が使用されています。



パワーサイクル試験装置



高温逆バイアス試験装置

次世代植物工場の 研究に参加

食の安全、安定供給のために



栽培棚15段のレタス工場



大阪府立大学・植物工場研究センター

大阪府立大学・植物工場研究センターとの 「完全人工光型植物工場」共同研究

世界的な異常気象が続く中、食の安全、食の安定供給への関心が世界的に高まっています。無農薬で天候に左右されずに栽培できる植物工場の研究は、環境、食糧、エネルギー、資源にかかわる課題解決につながると期待されています。大阪府立大学では、完全人工光型植物工場の先進的な研究開発拠点として植物工場研究センターを設置しました。早くから植物工場の開発に取り組んでいるエスペックは、同研究センターと共同で次世代型植物工場の研究を行い、植物工場の普及、拡大を通じて社会貢献を目指しています。

国内最大級のレタス工場

2011年4月、植物工場研究センター内にLEDや蛍光灯の人工光だけで栽培する研究施設としては国内最大級の植物工場が稼働しました。栽培棚は15段（高さ7m）、成長に応じて1段ずつ下ろし、下まできたら収穫し、露地物の半分に収穫期間を短縮できます。栽培棚を積み上げることで面積当たりの収穫量をあげ、品質や大きさがそろった野菜が作りやすくなっています。当社グループ企業のエスペックミックが、光・温度・湿度などのレタスの育成に必要な環境を設定する技術を提供し、高効率生産実証の共同研究を行っています。

アイスプラントの栽培実証研究

見た目に美しく、食べても栄養価が高くおいしいアイスプラント。葉や茎にキラキラと光る水泡のようなものがついていて、まるで凍っているように見えるので、この名前がつけられました。アミノ酸や抗酸化物質など機能性の高い物質を多く含み、健康に良い野菜として注目を集めているこの野菜の栽培研究も、植物工場研究センターと共同で行っています。培養液制御、人工光源による高効率照明法、最適空調利用などにより30%のコスト削減を実現する生産体系の確立を研究しています。



アイスプラントを栽培する植物工場

● エスペックの植物工場

さまざまな用途でご活用いただいています

当社では、移送や設置工事を容易にして低コスト化を実現したコンテナ式の植物工場や、レストランに設置できる野菜育成装置など用途に応じてご用意しています。

北海道旭川の社会福祉法人「はばたき」では、屋内型の植物工場をご活用いただいています。屋内で栽培するので、雪の多い旭川でも野菜の安定した収穫ができます。ここで働くみなさんが、苗から育成して収穫したレタスを販売しています。



コンテナ式植物工場



野菜育成装置プラントセラー



生物多様性への取り組み

日本の在来植物チガヤ草地を創出

自然環境をつくる事業を行うエスペックミックでは、1997年頃から堤防法面の緑化や草地を作る植物としてチガヤ(イネ科の植物)の研究や商品化に取り組んでいます。外来植物の中には、在来種を駆逐して本来の生態系を壊してしまうほど繁殖力が旺盛な種が多く、問題視されています。エスペックミックでは、施工する土地や流域のチガヤの種子を採取して製品化するなど日本の在来植物にこだわった法面緑化に取り組んでいます。



チガヤを種子から栽培

天竜川 チガヤによる堤防の法面緑化

長野県天竜川の一部の堤防では、特定外来生物に認定されたオオキンケイギクが生育しています。天竜川では当初堤防に芝が施工されましたが、その後繁殖力が旺盛なオオキンケイギクに置きかわってしまいました。またオオキンケイギクは株状に生えるため、株と株の間に裸地が出現してしまい、降雨による浸食が進むなど、堤防としての機能が弱体化する恐れがありました。

そこで芝に替わる植物としてチガヤに着目し、チガヤマットを製品化して天竜川堤防法面に施工しました。現在、天竜川におけるチガヤ植生の累積施工面積は約10,976㎡になります。これからも、日本の在来植物にこだわった自然環境づくりに取り組んでいきます。



天竜川堤防法面のチガヤ草地

エスペックは、コーポレートガバナンス体制の強化や、コンプライアンスの推進、リスクマネジメント、内部統制システムの構築・運用などに継続して取り組むことで、より社会性・透明性・効率性の高い企業を目指しています。

コーポレートガバナンス

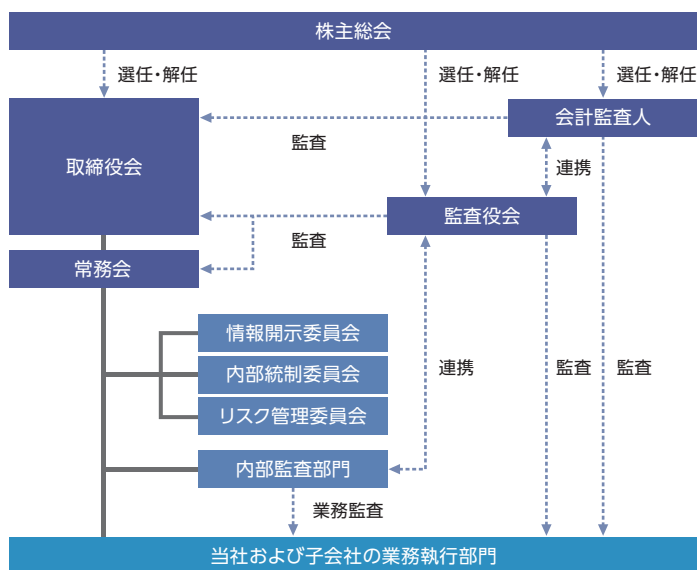
基本的な考え方

企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置であるという「企業は公器」との考えのもと、ステークホルダーのみならずとより良い関係を築き、より高い価値を提供することで「価値交換性の高い企業」を目指しています。この考えを踏まえて事業活動を行うにはコーポレートガバナンスの確立は不可欠であり、コンプライアンスの確保と、透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

コーポレートガバナンス体制

当社は監査役会設置会社であり、監査役は毎月開催される取締役会や重要会議体に出席し、適正な監査を行っています。2011年6月末現在、取締役は社外取締役1名を含む8名、監査役は社外監査役2名を含む4名で構成しています。取締役の任期は1年とし、経営責任の明確化を図っています。また、社外監査役1名を独立役員として東京、大阪両証券取引所に届け出しています。

■ コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス

基本的な考え方

順法だけでなく、社会規範を尊重し、社会の常識や道徳観・倫理観に反しない企業活動を心がけています。また活動を行う国や地域によって法律上に格差がある場合には、より社会性の高い内容を定めた法律の適用を自らに課すこととしています。こうした考え方は、THE ESPEC MINDの『宣言』や『経営理念』などに明記されています。

「エスペック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

「エスペック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページに掲載し、社内外に公表しています。また、定期的に研修を行うとともに常時携帯するための小冊子を配布しています。

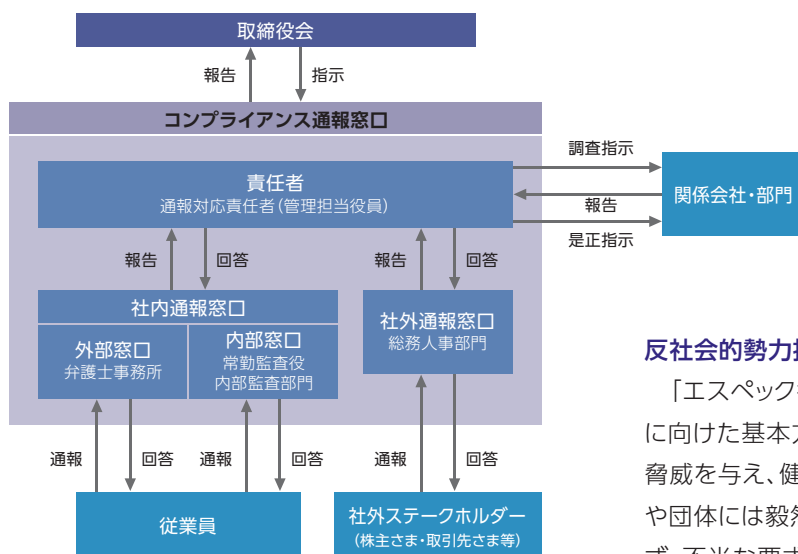


「エスペック行動憲章・行動規範」小冊子

コンプライアンス通報窓口の設置

「コンプライアンス通報規定」を制定し、社員はもとより、お客さまや取引先さまなど社外の方からも広く通報を受けるコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報を行ったことを理由とする通報者への不利益な取り扱いは一切行いません。これにより、不正行為等の未然防止および早期発見・解決を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化に努めています。

■コンプライアンス通報体制



り続けること」を内部統制に関する基本方針として定めています。

なお、2011年3月期の外部監査において、内部統制の運用評価は適切で、不備・重要な欠陥がない旨の監査結果を得ています。

反社会的勢力排除に向けた取り組み

「エスベック行動規範」において、反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨み一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

また、対応統括部門および不当要求防止責任者を設置し、外部専門組織との連携体制を構築するとともに「反社会的勢力対応マニュアル」を策定しています。

感染症への対応

新型インフルエンザの流行が懸念された段階で、政府の指針に沿って対応マニュアルを策定しました。

2009年5月には、世界的な感染拡大を受け、感染拡大国への出張禁止、社員や家族の感染が確認された場合の対応などについて社内に周知し、状況に応じた対応を行ってまいりました。

地震対策

当社では、大規模な地震が発生した場合に備え、事業の継続と社員の安全を確保するため、「危機対応規定」、「地震対応手続」を設定し、緊急時の対応を社員に周知しています。すべての国内事業所に非常食などの災害備蓄品を配備するとともに、定期的に防災セミナーや防災訓練を実施しています。今回の東日本大震災を教訓に、大規模災害に備えて事業継続計画の構築を進めていきたいと考えています。

リスクマネジメント

リスク管理の強化

当社では、全社的なリスクの識別・評価は、所管部門や検討部会で実施し、その結果をリスク管理委員会で審議・承認しています。

個別リスクについては、関連諸規定・付議基準に基づき取締役会や関連会議体で評価したうえで対応策を検討・決定し、所管部門で対応を行います。また、これらの対応内容を「リスク管理規定」に定め、リスクが顕在化した場合は、「危機対応規定」に基づき適切・迅速に対応します。

情報管理体制

情報管理体制については、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定し、管理の徹底を図っています。

内部統制システムの構築・運用

「意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を順守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、社会やステークホルダーに信頼される会社であ

お客さまとのかかわり

エスペックでは、製品の販売からアフターサービス・廃棄まで、お客さまに信頼と満足を提供し続けていけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

製品・サービスの品質保証

「継続と進化」を基本方針に、
製品とサービスの品質向上に取り組みました。

品質方針

当社は、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、当社製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、私たちの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供を行う」を基本理念として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

品質保証体制

企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立し、活動を行っています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」の審査・登録を行い、その後2008年ISOの改正を受けて、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

2010年度は、基本方針に「継続と進化」を掲げ、従来の品質改善の取り組みで重要な施策に関しては継続し3社統合による業務効率や品質対応力を進化させ

強化に取り組みました。クオリティの高い製品の提供と国際レベルでの品質保証体制により、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

QMC活動

2006年度より、これまで生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。QMC活動は、生産部門だけでなく、営業・スタッフ部門から開発部門までを対象とした全員参加型の小集団活動であり、「全てはお客さまのために」という視点で、全社をあげて取り組んでいます。

2010年度は100チームがさまざまなテーマで改善活動に取り組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

お客さまへの満足に向けて

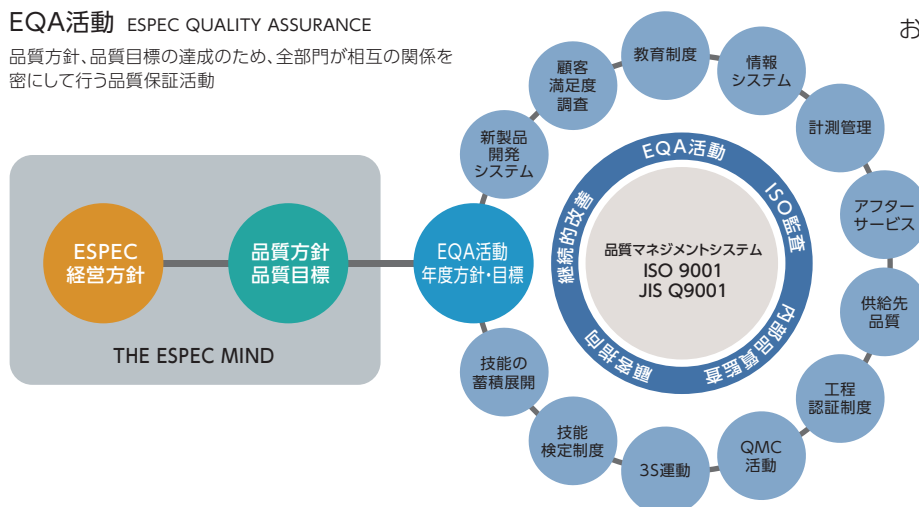
お客さまの課題解決に役立つ
付加価値情報の提供を行っています。

信頼性セミナーの開催

お客さまへの信頼性試験における有益な情報を提供する活動として昨年に引き続き、信頼性セミナーを開催しました。例年、多数のお申込みがあるため2010年度は東京会場を広くし、ご要望にお応えさせていただきました。その結果、3会場合わせて220名のお客さまにご参加いただきました。

お客さまからのご質問やアンケートを参考にしながら、今後もお客さまのお役に立つセミナーを開催してまいります。

EQA活動 ESPEC QUALITY ASSURANCE
品質方針、品質目標の達成のため、全部門が相互の関係を密に行う品質保証活動



● エスペック信頼性セミナー2010<プログラム>

- 1.基調講演「はんだ実装部の熱疲労メカニズムと寿命予測／寿命設計の考え方」
- 2.エレクトロニクス分野における最近の環境試験動向とその実施例
- 3.実装状態のめっきウィスカ成長加速法の検討



エスペック信頼性セミナー2010

信頼性試験情報サイト「Test Navi」の充実化

サイト上に掲載している「Test Navi Report」(年間4回発行)では、有識者による最近の技術課題や信頼性における課題をわかりやすく解説したレポートを掲載しています。お客さまにとって価値ある情報をお届けできるようサイトの充実化に努めており、現在、「Test Navi」会員登録者数は5000名を超えました。

■ Test Navi <http://www.test-navi.com>

カスタマーサポート

予防保全活動と24時間受付サービスで
お客さまに安心をお届けします。

カスタマーセンター

当社は全国のお客さまや代理店さまのお問い合わせにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置し、技術問い合わせやお客さまのニーズに合わせた製品紹介、トラブルシューティングなど、年間約1万件を取り扱っています。

また、オペレータの品質向上及び均一化を図るためモニタリングによる教育を定期的実施しており、お客さまのお問い合わせに対して提案できるようスキルアップを図っております。代理店さま向け情報については随時、新規登録や改訂を行いタイムリーな情報提供に努めています(年間約150件)。

提供している内容についてもアンケートやヒヤリングを行い改善に取り組んでいます。



予防保全とメンテナンス

お客さまに安心して製品をご使用いただくため、全国に17拠点のサービスネットワークを構築し、フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動と24時間受付サービスを行うなど、お客さまに安心・安全をお届けしています。

また、フィールドエンジニアに対するアンケート調査・分析を毎年実施し、2010年度は「整理整頓」、「訪問時間」や「対応スピード」などにおいて高い評価をいただきました。この結果をフィールドエンジニアの教育や業務改善に反映させ、アフターサービスの向上に役立てています。製品突発故障時の修理対応速度として、1日以内完了80%を目標(2010年度実績78%)に、これからも迅速なサービス対応に取り組んでまいります。

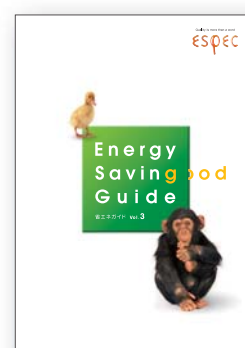
東日本大震災への対応

当社では、震災直後よりお客さまの装置が正常に動き、大切な試験が中断しないように全力を挙げて取り組みました。当社のフィールドエンジニアがお客さまを訪問し、装置の立ち上げ診断を無料で実施させていただきました。また、カスタマーセンターでは、装置の立ち上げ診断のコレクト対応を実施しました。



電力供給不足への対応

今夏の電力不足への対応においては、当社製品の消費電力量の実測や、お客さまの試験を代行する受託試験の提案を行い、装置の使用時における節電方法を省エネガイドVol.3にまとめてご案内しました。今後も継続してお客さま先での省エネルギー対策を提案してまいります。



省エネガイド Vol.3

従業員とのかかわり

「エスペック行動憲章・行動規範」において、基本的人権の尊重、差別的待遇の排除、プライバシーの保護、雇用における機会均等および人権侵害行為への対処などを明記し、周知徹底を図るとともに、より良い職場環境づくりに取り組んでいます。

人事方針・制度

「役割と成果」「選択と自己責任」を基軸とした自己実現と働きがいを出発点とする人事制度の構築に努めています。

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が主役の会社でありたい。というのが基本的な考え方です。

また、高いモチベーションと品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

自己実現と働きがいを出発点とする人事制度

「役割・成果主義」および「選択と自己責任」の2つを基軸として、役割と成果に応じた、メリハリと透明性・公平性のある処遇システムにより、一人ひとりの「自己実現」を可能にする、「働きがい」のある人事制度の構築に努めています。

●コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2011年3月末現在におけるコース選択状況は「転勤あり(海外含む)」が74%、「勤務地域限定」が26%となりました。

社員表彰の実施

1991年より毎年、特許・実用新案の取得や行政、加入団体等からの表彰など、精励・功労の著しい社員を他の範としてたたえる社員表彰を行っています。

コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的実施しています。社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合うことで、部門におけるベクトル合わせとコミュニケーションの円滑化を目指しています。



メンター制度の導入

2008年度より、豊富な経験・スキルを持った先輩社員(メンター)が、経験の浅い若手社員(メンティー)と対となって、業務指導から精神面のフォローまでを一定期間行うメンター制度を導入しました。これにより、未来を担う人材の能力開発、教育文化の醸成、コミュニケーション能力の向上を図っています。



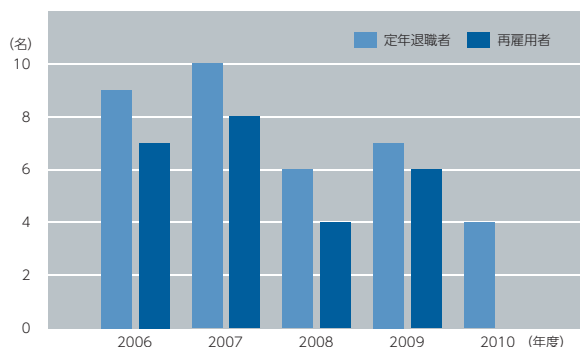
多様性の尊重

年齢や性別など社員一人ひとりの多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。

定年退職者の再雇用

知識・知恵・技能の伝承ができるように定年退職者の再雇用制度を導入しています。再雇用制度によって、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。

■再雇用者数



障がい者の雇用

障がいのある方が8名勤務しています(2011年3月末現在)。障がい者を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組みます。

女性の管理職登用

管理職は男性が186名、女性が4名です(2011年4月1日現在)。女性管理職比率は約2%ですが、管理職登用の条件については、男女雇用機会均等法を順守し、性別による格差は一切設けていません。そのため少しずつではありますが、管理職を目指す女性が増加傾向にあります。女性管理職の増加が組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用を行っていきます。

快適な職場環境づくり

社員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランスマネジメント

2006年度より改正労働安全衛生法を拡大適用し、単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対して医師による面接指導を義務づけています。また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度を導入しています。

さらに、次世代育成支援策の一環として、正社員だけでなく契約社員においても育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。2011年3月末までに延べ67名が育児休業を取得し、延べ32名が育児短時間勤務を選択しており、2010年度では8名が育児休業、4名が育児短時間勤務を利用開始しました。

セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇・いやがらせ行為等について、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。本窓口では、男性・女性それぞれ1名ずつ担当者を設けています。

メンタルヘルスケアの推進

心の健康問題への対策として、社員とそのご家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。WEB上のストレス診断で毎月自己の状況を確認するほか、eラーニングによるメンタル知識の向上を図り、自己予防を推進しています。また、電話やWEB、面接による相談窓口を設置しています。

ストレス診断の結果は、組織単位で分析し、管理職向けの研修を行うなど、快適な職場環境づくりに向けた取り組みへとつなげています。さらに、退職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行うなど、うつ病などの心の健康問題の予防・早期発見に努めるとともに、発症時の専門的ケアを行っています。

安全衛生活動

主要事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動に取り組んでいます。

2010年度の当社の労働災害発生件数は1件で、連続無災害日数(不休災害を除く)は211日となりました(2011年3月末現在)。

■安全衛生活動の目標と実績

| | 目標 | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 |
|------------------|------|--------|--------|--------|
| 労働災害(不休災害を除く) | 0件 | 0件 | 0件 | 1件 |
| 健康診断受診率 | 100% | 99% | 97% | 99% |
| 車、バイク、自転車による人身事故 | 0件 | 8件 | 2件 | 5件 |
| 車、バイクによる自責事故 | 0件 | 23件 | 14件 | 23件 |

福利厚生の充実

社員の多様なニーズへの対応や、より公平な福利厚生サービスの提供を目的として、自身で必要なサービスを選択する選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」を導入しています。育児や介護、学習、旅行など多様なメニューから割引サービスなどを受けることができます。

また、社員の資産形成を支援するため財産形成貯蓄制度では、社員の積立額に対して定率を奨励金として、従業員持株会では、会員の拠出金に対して定率の奨励金を会社より支給しています。

従業員とのコミュニケーション

会社と従業員の双方向のコミュニケーションにより、良好な労使関係の構築に取り組んでいます。

社長メッセージ

社内ホームページ上に、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えることで、経営層と現場のベクトル・価値観の共有化を図っています。

ダイレクトコミュニケーション

2010年度は、経営層と一般社員との対話を行う「ダイレクトコミュニケーション」を実施しました。社長をはじめとする全役員が、全国の各事業所に出向いて、一般社員から会社の将来や自分たちの仕事についての要望や質問などを聞きました。うちとけた雰囲気の中、経営層と一般社員との間で活発な意見が交わされました。



ダイレクトコミュニケーション

労使関係

当社の労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は673名、組合員比率は77.8%となっています(2011年3月末現在)。労働組合とは労働協約のもと相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。

取引先さまとのかかわり

製品・サービスの品質向上において、取引先さまとの信頼関係が重要であると考えています。そのために、エスペックでは、取引先さまのみならず、長期的かつ発展的な関係づくりを注いでいます。

WEB | 資材調達 調達の基本方針・取引開始までの手順

取引先さまとのより良い関係を目指して

コンプライアンスの徹底や
事業継続マネジメントの取り組みなど、
取引先さまとの価値観の共有化と
信頼関係の醸成に取り組んでいます。

基本方針

当社は取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を順守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスを適切な品質・価格・納期・環境への配慮を含めて総合的に判断し調達していきます。

法令の理解・順守のために

資材調達において「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」の順守を徹底することを目的としたさまざまな取り組みを行っています。

2010年度は、関係会社2社との合併を踏まえて、サービス事業および信頼性試験事業の下請代金法順守状況の定期的確認を実施し、懸案事項に対する必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を重点的に行ってきました。また、これまで継続的に実施してきた下請代金法講習会を購買担当者だけでなく、取引先さまと関係のある部署・グループ会社の責任者にまで対象を広げ開催し、下請取引を適正に行える体制の強化に取り組みました。

事業継続マネジメントの取り組み

地震や火災といった自然災害や取引先さまの倒産などの不測の事態が生じた場合に、お客さまへのサービスに対する影響を最小限にするための取り組みを行っています。3月11日の東日本大震災発生時には、発生後直ちに取引先さま86社に対し、従業員および製作現場に関する状況確認を実施し、すべての取引先さまの無事を確認しました。また、重要管理部品726点における製作・供給状況を定期的に確認しています。当社資材調達において問題が生じる恐れがある部品の情報をいち早く入手し、関係部署と連携し速やかに対応することで、生産現場への影響を最小限に抑えました。

「エスペック共栄会」の運営

1981年より取引先さまと当社との相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織しており、41社の取引先さまに参画いただいています。（2011年3月末現在）

2010年度の共栄会総会では、2009年度の活動報告・収支報告および2010年度の活動予定・予算について審議され承認されました。2010年度の活動内容としては、経営に関するセミナーや工場見学、QCサークル活動に関する勉強会を実施しました。また、良好なパートナーシップの構築に向けて、取引先さまの実務担当者や当社購買担当者との交流イベントも行っています。

「エスペック優良取引先表彰制度」の実施

多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表する「エスペック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2010年度は、優秀賞1社・特別賞3社の取引先さまを表彰させていただきました。



優良取引先表彰

グリーン調達の実施

2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「エコアクション21」の認証取得または「エスペック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、実現のために講習会や現地指導による活動支援を行っています。

2010年度は「エスペックグリーン調達基準書」の見直しを行うと共に、RoHS規制対応強化等、認定取引先さまのグリーン調達対応におけるレベルアップを図るための活動に取り組みました。

その結果、当社登録部品点数の84%を占める合計110社の取引先さまがエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。

株主・投資家さまとの かかわり

エスペックは、「ステークホルダーへの実直なアカウンタビリティ」を経営理念に掲げ、常に誠実・正直に説明責任を果たすことをポリシーとしています。IR活動においても適時適切な情報開示や説明会・IRツールの充実などに取り組んでいます。

株主・投資家さまとのコミュニケーション

迅速かつ適切な情報開示を経営の重要な責務と認識し、良好なコミュニケーションの醸成に努めています。

情報開示の方針・体制

会社法、金融商品取引法等関係法令、証券取引所のできる適時開示規則等に従って、情報開示を行っています。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解していただく上で役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。

社内体制としては、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法などを審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また、情報開示を行う者（スポークスマン）を限定することで情報の一元化に努めるとともに、ホームページへのタイムリーな情報掲載により、株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を行っています。

開かれた株主総会の実現に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

2010年度は6月24日に開催し、112名の株主さまにご出席いただきました。また、総会終了後、株主さまと役員が親しくお話をする時間を設けました。



株主総会

機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と取締役が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングにつきましても東京・大阪を中心に随時行っており、2010年度は約100回実施しました。



決算説明会

IRツールの充実

株主通信やファクトブック、ホームページのIRサイトなどのIRツールの充実に継続的に取り組んでいます。

IRサイトでは、決算説明会の資料や各種財務データ、株主・株式情報など、みなさまに当社をご理解いただくために役立つ情報を積極的に掲載しています。また、IRサイトに新たな決算情報やニュースリリース、IR資料などを掲載した際に、国内および海外の投資家さまにタイムリーにお知らせする情報配信活動も行っています。

IRサイトに対する社外評価

当社のIRサイトは、日興アイ・アール株式会社が主催する「全上場企業ホームページ実態調査充実度ランキング」においても、4年連続で数ある国内全上場企業（2010年度:3,682社）の中から「最優秀サイト（総合ランキング）」として選定されるなど、当社のIRサイトは非常に高い評価をいただいています。



■ IRサイト <http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

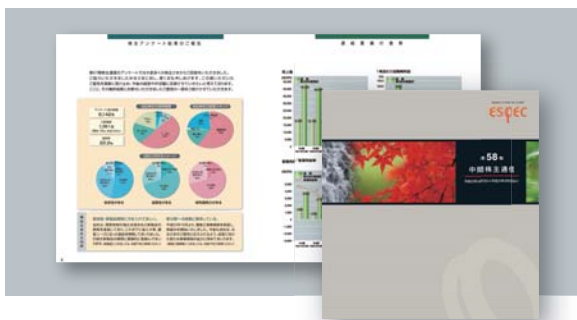
経営へのフィードバック

市場からの貴重な意見・評価を経営にフィードバックし、さらなる企業価値の向上に取り組んでいます。

株主・投資家さまアンケート

当社は、会社説明会開催時などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付に合わせて株主さまを対象としたアンケートを実施しています。また、この株主通信のアンケート結果については、中間株主通信において報告しています。

2010年度は、1,361名の株主さまからご回答いただきました。

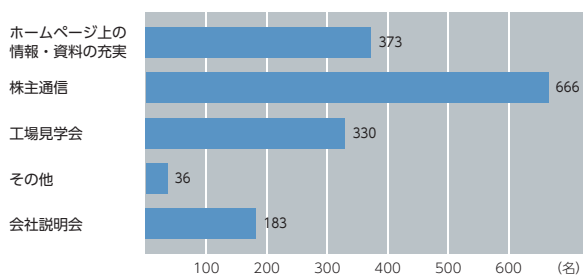


株主アンケート報告(中間株主通信)

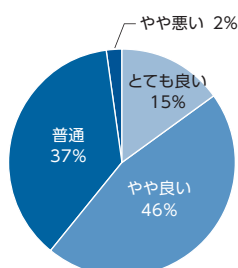
■ 株主アンケート結果(2010年6月実施)

回答者総数: 1,361名(男性:76% 女性:24%)
回答率: 22.2%

〈今後充実してほしいIR活動〉(複数回答可)



〈株主通信の評価〉



市場評価のフィードバック

会社説明会や株主通信送付時に行ったアンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などを「IRレポート」としてまとめ、随時発行しています。この「IRレポート」は取締役会で報告を行っており、市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

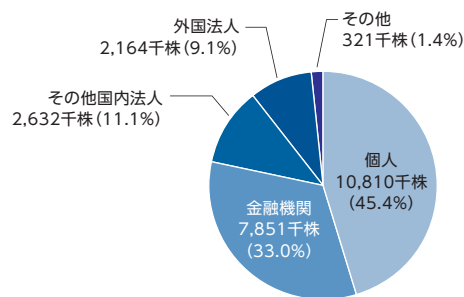
株主さまへの還元

継続性と配当性向を勘案し、株主さまへの配当を実施します。

株主さまへの還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、持続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であるとし、継続性と配当性向を勘案して配当を決定することを基本方針としています。2011年3月期の年間配当金は15円とさせていただきます。

■ 株主構成比 (2011年3月末現在)



株主数: 6,077名

発行済株式の総数: 23,460,522株(自己株式320,872株を除く)

地域とのかかわり

エスペックは「良き社会の一員」として、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、一人ひとりがその意義を認識し、社会貢献を重んずる企業風土の醸成に取り組んでいます。

地域とのコミュニケーション

「良き社会の一員」として、
さまざまな活動を通じて
地域のみなさまと交流を持ち、
相互理解に努めています。

みどりのカーテン普及・啓発活動

当社は、ゴーヤを使ったみどりのカーテンを普及・啓発する活動を2007年度より積極的に行っています。みどりのカーテンにより夏の日差しを和らげ、葉の蒸散作用により室温の上昇を抑えることができます。

●「エスペックみどりの学校」活動

当社では環境教育のリーダーを育成する「エスペックみどりの学校」を開設し、ゴーヤ先生養成セミナーを開講しています。2010年3月、これらの取り組みは環境教育推進法に基づく人材認定等事業として、環境省・文部科学省・国土交通省に登録されました。



●小学校での「環境出張講座」の開催

紙芝居で地球温暖化問題を学習し、サーモグラフィによるみどりのカーテン効果測定や、実際にゴーヤの植え付けを体験する講座を小学校で行っています。2010年度は174名の児童が参加しました。



●主要事業所でのみどりのカーテン・栽培育成

当社の主要事業所でもみどりのカーテンを育成しており、社員が育てた苗を各地域に出荷しています。



●各種環境イベント・セミナーでの普及活動

さまざまな環境イベントに参加、セミナーを開催しています。ゴーヤダンスやゴーヤソングで多くの人々に楽しく学んでもらえる活動を推進しています。

京都モデルフォレスト

2007年、福知山市大江町毛原自治会と森林利用保全協定を結びました。京都府北部では初めての協定となり、「森林を核とした持続的な地域づくり」として自治体と共同して森林整備に取り組んでいます。

2010年度は、3回、延べ60名がボランティアとして参加しました。これまで、4年間で延べ205名が活動に参加しています。この活動により、年間0.9t相当のCO₂の吸収が期待されています。



京都モデルフォレスト

中学生の郷土学習受け入れ

中学校の郷土学習の一環として、愛知県江南市宮田中学校の1年生10名の訪問学習を受け入れました。「自然環境復元の仕事」について学んでもらい、中学生からの環境に関する多くの質問に答えるなど、環境保全の大切さを考えていただきました。

また、子供たちの視点からの素朴な質問を受けることにより、社員にとっても気づきが得られ環境保全についての考えをより深めることができました。



生物多様性問題について小学校で講演

国際生物多様性の日(5月22日)に合わせて行われる「グリーンウェイブ活動」において、愛知県の大口町立西小学校と扶桑町立高雄小学校において、森林の大切さ、生物多様性に関する講演を行いました。

講演後は、子供たちに植樹の方法などの説明をしながら、校庭にどんぐりの苗を植えました。



小中学校社会体験型教員研修の受け入れ

10月4日～12月3日までの2カ月間にわたり、中学校教員1名を受け入れ、研修を行いました。研修の目的は、実際の勤務に関わることで自然環境創造を事業としている企業を知り、環境問題における視野を広げることです。

エスペックミックで作成した研修プログラムのもと、さまざまな体験をしていただきました。



クリーンエネルギーフェスタ2010を開催

宇都宮テクノコンプレックスでは、2001年度から、環境フェスティバルを開催するなど、地域の市民を対象とした環境啓発活動を推進しています。

2010年度は、NPO法人「PV倶楽部とちぎ」との共催で、クリーンエネルギーフェスタ2010を開催し、来場者172名と、多くのご家族にご参加いただきました。ソーラーカー乗車体験やソーラー電池工作などの体験を通して、子供たちに楽しく環境について学んでもいただきました。



ソーラーカー乗車体験

ソーラー電池工作

被災地域への支援活動

●東日本大震災義援金に寄付

今回の大震災の復興にお役立ていただくため、当社・グループ会社から1,000万円を、当社グループの役員および従業員から198万円を義援金として日本赤十字社の東日本大震災義援金に寄付させていただきました。

●宮城県気仙沼市でみどりのカーテンづくり

東日本大震災から3カ月が経過した2011年6月24日。当社の社員らが気仙沼市の仮設住宅にみどりのカーテンを作ろうとゴーヤの苗200本を植えました。当日はあいにくの雨でしたが、仮設住宅に住む人々と作業を進め、育て方を伝えました。夏には、立派なみどりのカーテンが完成しました。



苗の頃

みどりのカーテンに成長

環境マネジメント

エスペックでは、環境への取り組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、継続的に環境マネジメントに取り組んでいます。

環境経営の基本方針

当社は、環境宣言「エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」に基づき、真摯に

環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

エスペック環境基本方針

環境宣言

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

基本理念

エスペックは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
よって、エスペックは、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、生物多様性の保全ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。
そして、環境試験装置、電子デバイス装置などの製造、販売、メンテナンス、及び受託試験の提供で、低炭素技術などを開発されているお客さまに貢献する企業となることを目指します。

基本方針

1. 地球温暖化防止への貢献を目指し、技術開発、製品及びサービスの開発を行い、お客さまに提供します。
2. 生物多様性保全に関する研究・教育への支援と啓発を通して、地球環境保全に貢献します。
3. 事業活動・製品・サービスの有害物質の管理やグリーン調達によって、環境への汚染防止に努めます。
4. 企業活動にて発生する排出物と製品の3R（リデュース・リユース・リサイクル）に努めることによって、循環型社会の実現に寄与します。
5. 設計・製造・販売・メンテナンス・事務活動における環境負荷低減によって、地球環境保全に貢献します。
6. 環境関連法規制ならびに組織が同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組めます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

2011年4月1日

代表取締役社長

石田 雅昭

●この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します

環境マネジメント推進体制

2010年度は、**全社環境管理委員会**において、**環境目標を10項目設定し、目標達成にむけて全社一体となり推進しました。**

ISO14001の認証取得

当社は、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、継続して環境ガバナンスの強化を図ってきました。

2010年4月、グループ会社のエスペックエンジニアリング株式会社およびエスペックテストセンター株式会社を吸収合併し、これに伴い、2010年度からは環境マネジメント活動も5社27事業所(右記上段)で推進しています。



全社環境管理委員会

環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。2010年度は、環境目標の中でも特に、環境配慮型製品の開発を中心においた環境マネジメント活動を行いました。

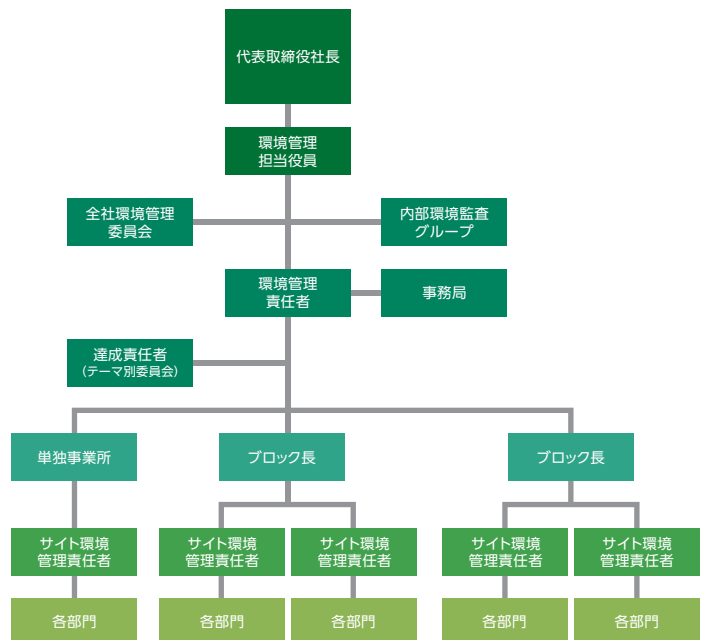


全社環境管理委員会

■ 環境マネジメントシステムの審査登録状況

| 社名 | 環境マネジメントシステム | 取得年月日 |
|----------------|--------------|-------------|
| エスペック株式会社 | ISO14001 | 1996年12月26日 |
| 広州愛斯佩克環境儀器有限公司 | ISO14001 | 2000年12月1日 |
| エスペックテクノ株式会社 | ISO14001 | 2003年3月12日 |
| エスペック九州株式会社 | ISO14001 | 2004年8月4日 |
| エスペックミック株式会社 | エコアクション21 | 2005年4月27日 |

■ 環境マネジメント活動の組織図(イメージ図)



第4次環境中期計画「エスペック2012グリーンプラン」

2010年度は業績の回復に伴い、電力や紙の消費、排出量が増えましたが、年度後半は適正な状態を維持することができました。環境配慮型製品の開発も予定どおり進み、これらの製品の提供についても大きな成果を上げることができま

した。2010年度からテーマに加えた生物多様性保全については、社会貢献の活動と連携・統合して取り組んでいきます。

2011年度からは第5次環境中期計画をスタートさせます。

■ 第4次環境中期計画「エスペック2012グリーンプラン」の成果

| 重点テーマ | 「エスペック2012グリーンプラン」2012目標値 | 2010年度実績 | 評価 |
|-------|--|---|----|
| 温暖化対策 | 1990年度比CO ₂ 排出量 6%削減 排出量6300t (当初、1990年度の生産・事務部門のCO ₂ 排出量は3470tと試算してましたが、2010年度に精査し6700tであることが判明しました) | 2010年度 4700t(生産・事務部門) 1990年度比30%削減※1 | ◎ |
| 資源循環 | ① 国内全事業所の85%でゼロエミッション達成 | 82% | △ |
| | ② 製品リサイクル 400台/年 | 94台 | |
| 有害物質 | 新製品の使用部品を可能な範囲でRoHS規制対応とする | 96.4%対応 | ○ |
| 社会貢献 | 社会貢献活動の拡大(社員・市民への環境啓発を年間900名以上に実施) | 2111名 | ◎ |
| 生物多様性 | 森づくり、ピオトープづくりを通じた生物多様性の保全活動促進 | 現状把握実施 | ○ |

※1 <これまでの削減成果> ①冷媒回収装置の導入で2390t削減(1995年から) ②工場への省エネ化設備投資で310t削減(1997年から) ③社有車削減やハイブリット化で125t削減(2007年から)

2010年度 目標・実績

| | 目的・目標テーマ | 環境目的(2009~2012年度) | 環境目標(2010年度目標) | 実績 | 評価 | 重点テーマ | | | 新規テーマ |
|-----------|----------------------|--|--|---|----|-------|------|------|-------|
| | | | | | | 温暖化対策 | 資源循環 | 有害物質 | |
| グリーンプロダクト | 1 環境配慮型製品開発 | ●LCA手法を活用し、環境配慮技術の開発を行います | ●省エネ30%以上の新製品を2機種発売します | 2機種発売 | ○ | | | | 生物多様性 |
| | 2 環境配慮型製品拡販 | ●グリーンプロダクトラベル認定製品の販売台数比率を20%以上とします | グリーンプロダクトラベル認定製品の内、 ●2009年度発売の認定製品2機種の販売台数を年間186台以上とし販売台数比率を5%以上とします ●2010年度発売予定の認定製品3機種の販売台数および比率の目標値は、2010年度中に定めます | 413台販売 | ◎ | 温暖化対策 | 資源循環 | 有害物質 | |
| | 3 製品有害物質管理 | ●新製品(モデルチェンジ品含む)の使用部品におけるRoHS規制対応を目指します | ●新製品2機種においてRoHS非対応部品や素材を明らかにしたうえで、可能な範囲でRoHS対応します | 96.4%対応 | ○ | | | | 生物多様性 |
| グリーンプロセス | 4 CO ₂ 削減 | ●CO ₂ 削減目標の対象範囲を生産部門・事務部門だけでなく、基本方針「製品・サービス」を機軸とした環境経営の推進にそった活動に広げます | CO ₂ の排出量を、 ●4,140t以下(対象:生産部門・事務部門) ●2,400t以下(対象:受託試験) 合計6,540t以下(2009年度合計実績6,542t)にします | 合計7,877t (期中目標を8,200tに見直し適正状態で維持) | ○ | 温暖化対策 | | | 生物多様性 |
| | 5 製品リサイクル | ●使用済み製品の回収を年間400台以上にします | ●使用済み製品の回収を年間120台以上にします | 94台 | △ | | 資源循環 | | |
| | 6 ゼロエミッション | ●国内全事業所の85%以上において、ゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を99%以上とします(ゼロエミッション定義:リサイクル率99%以上) | ●国内全事業所の75%(22事業所中17事業所)以上においてゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を99.1%以上とします | 国内事業所の82%(18事業所)で実現 全社平均リサイクル率 99.5% | ○ | | 資源循環 | | |
| | 7 グリーン調達 | ●グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を80%以上とするとともに、「エスペック・エコ・スタンダード」既認定先のマネジメントレベルを向上させます | ●グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率80%を維持します ●「エスペック・エコ・スタンダード」既認定先のA評価50%を65%以上にします | グリーン調達基準に基づく部品調達率 84.2% | ○ | | | 有害物質 | |
| グリーンマインド | 8 全事業所の紙ゴミ削減 | ●全事業所での紙の購入量を2008年度比18%(130万枚)削減します ●全事業所での排出物の排出量を2008年度比15%(56t)削減します | ●全事業所での事務用紙の購入量を2008年度比23%(171万枚)削減します ●全事業所での排出物の排出量を2008年度比11%(44t)削減します | 事務用紙の購入量 16%削減 排出物 17%増加 | △ | | 資源循環 | | 生物多様性 |
| | 9 環境啓発 | ●みどりのカーテンやフューチャーラボなどを活かした社員および市民への環境啓発を年間900名以上に実施します ●エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全社員の10%以上とします | ●社員および市民への環境啓発のみどりのカーテンを用い300名以上、フューチャーラボへの誘引を400名以上に実施します ●エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全従業員の7%以上とします | 環境啓発を合計2,111名に実施 | ◎ | 温暖化対策 | | 有害物質 | 社会貢献 |
| グリーンアクション | 10 生物多様性保全 | ●森づくり、ピオトープづくりなどを通して生物多様性の保全活動を促進します | ●神戸R&Dセンターの森とピオトープの植栽樹種を対象にした観察を通して生物多様性の保全状況の現状把握を行います | 植栽樹種調査実施 | ○ | | | | 生物多様性 |

第5次環境中期計画

2011年度より第5次環境中期計画をスタートさせます。「製品・サービスを機軸とした環境経営」をより一層強化・推進して参ります。第5次環境中期計画では、これまで取り組んできた「汚染防止」「循環型社会の実現」に加え、特に「地球温暖化防止」に注力します。具体的には、省エネ効果の高い新製品の開発や、既にお客さまにご使用いただいている製品の省エネ改造を進めます。受託試験サービスにおいても、当社の省エネ製品を使用することでCO₂排出量削減に取り組ま

す。これまで同様、生産・事務部門におけるCO₂排出量削減活動に加え、製品・サービスにおけるCO₂排出量削減を強化することで、地球温暖化防止に向けた貢献を目指します。さらに、生物多様性保全への取り組みとして、設立から13年を経た公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」の充実化と、2010年度「環境教育推進法」に基づく「人材認定等事業」として環境省・文部科学省・国土交通省に登録された「みどりの学校」の拡充を図ります。

2011年度 目的・目標

| | 目的・目標テーマ | 環境目的 (2011~2013年度) | 環境目標 (2011年度目標) |
|---|-------------|---|--|
| 1 | 地球温暖化防止 | <ul style="list-style-type: none"> 製品・受託試験・プロセス(生産部門・事務部門)でCO₂排出量を削減します 削減 7,000t以上 | <ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品・省エネ改造サービスの提供で、お客さまでのCO₂排出量を2,400t以上削減します |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 省エネ30%以上の新製品を3機種発売します |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 太陽光パネル試験用の特殊装置を省エネ30%以上に提供します |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 既にお客さまにて使用されている恒温恒湿器を省エネ60%に改造するサービスを開始します |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 受託試験所の省エネを進め、CO₂排出量を100t以上削減します 生産部門・事務部門にてCO₂排出量を200t以上削減します |
| 2 | 生物多様性保全 | <ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 160件以上 | <ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による累積助成件数を136件以上にします |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 「みどりの学校」を充実し、「ゴーヤ先生養成セミナー」による環境教育と啓発を推進します 累積受講生 500名以上 | <ul style="list-style-type: none"> 「みどりの学校」を充実し、「ゴーヤ先生養成セミナー」の累積受講生を200名以上にします |
| 3 | 汚染防止 | <ul style="list-style-type: none"> 欧州向け製品をRoHS規制対応品とします | <ul style="list-style-type: none"> 新製品2機種においてRoHS非対応部品や素材を明らかにしたうえで、可能な範囲でRoHS対応します |
| | | <ul style="list-style-type: none"> グリーン調達基準に基づく部品調達率80%以上を維持します | <ul style="list-style-type: none"> グリーン調達基準に基づく部品調達率80%以上を維持します |
| 4 | 循環型社会の実現に寄与 | <ul style="list-style-type: none"> 国内においてゼロエミッションを実現する事業所を増やします(現在の18事業所を21事業所へ拡大) | <ul style="list-style-type: none"> 国内においてゼロエミッションを実現する事業所を1つ増やします |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収200台以上 | <ul style="list-style-type: none"> 製品リサイクルサービスにて回収した製品の有効利用方法を開発します |
| 5 | 環境負荷低減 | <ul style="list-style-type: none"> 設計・事務部門で、事務用紙使用量を削減します 削減20万枚以上 | <ul style="list-style-type: none"> 設計・事務部門で、1.7万枚の事務用紙使用量を削減します |

グリーンプロダクト (環境に配慮した製品とサービス)

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から環境配慮型製品の開発・提供を進めています。

環境配慮型製品創出への取り組み

環境に配慮した製品の提供を通じて、お客さま先での環境負荷低減に努めています。

製品開発の基本的な考え方

当社では、早くから地球環境保全に関心を持ち、製品の運転時の消費電力量低減や化学物質の適正使用、製品廃棄時における環境負荷低減などの問題に取り組んできました。その製品開発の姿勢は現在へと受け継がれ、当社の主力製品「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、これらを解決する「環境配慮型製品」の開発を継続的に行っています。その基本的な指針となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。20年以上前に初版を制定以来、時代とともに改訂を重ね安全・品質・価格・環境・納期のすべてを満足する製品を開発することを基本にしています。これからも地球環境に配慮した製品の創出を通じて、社会やお客さまに貢献することを目標に活動していきます。

リサイクルへの取り組み

当社製品は、金属材料と樹脂材料で構成しており、廃棄の際の分別が困難で、廃棄物処分場に負担をかけています。開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体・分別しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキングなどを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

冷媒フロンへの取り組み

当社では、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。2000年には、当社製品の冷凍回路のHFCフロンへの転換を完了させています。

化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて、自主的にRoHS指令対応部品への代替化を進めています。

危険有害化学物質排除に向けて

製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有害物質については、2011年3月末現在、当社製品はRoHS規制の対象製品ではありませんが、2013年度の全廃へ向けて、自主的にRoHS対応部品への代替化を進めています。

PRTR法(化学物質排出移動量届出制度)への対応

当社では、約400種類の危険有害化学物質を使用しています(当社基準に基づく選定)。これらに対し、MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置き換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理しています。2010年度、報告義務のある1t以上の取扱量となる物質はありませんでした。

アスベスト対応

当社では、過去の製品において断熱材やパッキンの一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があります。2006年6月末までにすべての製品においてアスベスト含有部材の使用を取り止めております。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報公開しています。

2010年度グリーンプロダクト認定製品

環境配慮型製品

製品の環境性能をお客さまに
分かりやすくお伝えるため、
製品への環境ラベル表示をしています。

グリーンプロダクトラベル

2009年4月、環境配慮型製品の開発促進、製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品を「グリーンプロダクト」と認定し、環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」制度を開始しました。

「グリーンプロダクトラベル」は、国際標準化機構 (ISO) で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型 (タイプII) の環境ラベル (ISO/JISQ14021) に相当するものです。「グリーンプロダクトラベル」の認定は、環境管理部が「グリーンプロダクトラベル」認定基準を満たしているか否かによって審査・承認し、貼付可否の判断を行います。



グリーンプロダクトラベル認定基準

<判断対象範囲>

2009年4月以降に国内向けに発売される

- モデルチェンジ製品、シリーズ化製品、新規製品
- 現行機種の改善・改良品
- 個別受注対応品

<認定基準>

グリーンプロダクトラベルを認定する際の評価基準は、従来製品との消費電力を比較し、製品ごとに定める当社指定運転パターンにおいて、従来比15%以上の省エネを達成していること。

高温高湿器 / エコモデル

従来比省エネ率 **最大72%**
(指定運転パターン)



| 製品型式 | ※ 運転条件 | 従来モデル 消費電力 (kWh) | エコモデル 消費電力 (kWh) | 比較 省エネ率 |
|----------|-----------|------------------------|------------------------|------------|
| PH-2KT-E | 60℃ | 1.18 | 0.41 | 65% |
| | 85℃/85%RH | 1.29 | 0.48 | 63% |
| PH-3KT-E | 60℃ | 1.19 | 0.45 | 62% |
| | 85℃/85%RH | 1.30 | 0.55 | 58% |
| PH-4KT-E | 60℃ | 1.91 | 0.54 | 72% |
| | 85℃/85%RH | 2.16 | 0.90 | 58% |

※無負荷・安定状態での測定値となります

冷熱衝撃装置TSAシリーズ

／Eタイプ

従来Sタイプ比省エネ率 **最大37%**
(指定運転パターン)



| 製品型式 | 運転条件 | 試料 | | 従来Sタイプ (エコ運転 機能搭載無) | Eタイプ (エコ自動 運転機能付) | 比較 省エネ率 |
|------------|--|-------------------------|---------------|---------------------------|-------------------------|------------|
| | | プラスチック モールドC (kg) | 試料カゴ受 (kg) | 消費電力 (kWh) | 消費電力 (kWh) | |
| TSA-102E-W | 高温さらし 125℃ 30分 (予熱145℃) 低温さらし -40℃ 30分 | 5.0 | 2.5 | 13.0 | 8.2 | 37% |
| TSA-202E-W | (予冷:凍Sタイプ-60℃/ Eタイプ:-55℃) 復帰時間5分以内 6サイクル | 10.0 | 6.0 | 17.6 | 11.6 | 34% |

恒温 (恒湿) 室ビルドインチャンバー

／Eシリーズ

従来比省エネ率 **最大61%**
(指定運転パターン)



| 製品型式 | ※ 運転条件 | 従来Hシリーズ TBL-4HW (ACU10搭載) 消費電力(kWh) | Eシリーズ TBL-4EW (ACU10E搭載) 消費電力(kWh) | 比較 省エネ率 |
|---------|-----------|--|---|------------|
| TBL-4EW | -20℃ | 3.89 | 2.12 | 46% |
| | -10℃ | 3.82 | 1.79 | 53% |
| | 10℃/50%RH | 5.15 | 3.44 | 33% |
| | 20℃/30%RH | 6.38 | 2.48 | 61% |
| | 20℃/80%RH | 3.29 | 2.10 | 36% |
| | 28℃/50%RH | 5.98 | 2.31 | 61% |
| | 40℃/95%RH | 7.43 | 3.76 | 49% |

※無負荷・安定状態での測定値となります

グリーンプロセス

(環境に配慮した工程)

グリーンプロセスとは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮することをいいます。エスバックでは、各拠点・部門で自分たちにできることを主体的に考え、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

事業活動における環境配慮の取り組み

幅広い範囲で環境負荷低減に向けた改善を進めています。

サービスでの取り組み

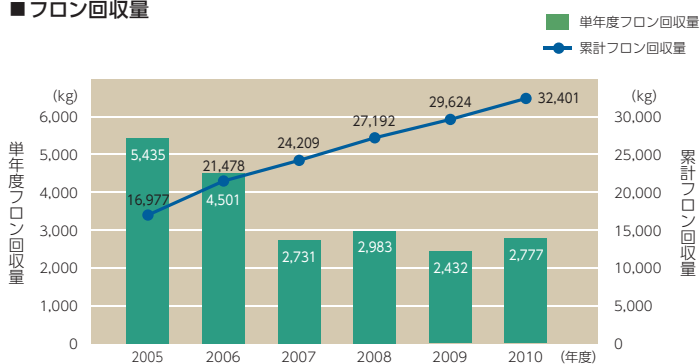
●製品回収

環境大臣より広域認定制度の認定を受け、「製品リサイクルサービス」を開始しました。このサービスは、お客さま先で使用済みとなった当社の環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。これにより、お客さまの廃棄手続にかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理していきます。2010年度は使用済み製品を94台回収しました。

●フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。「フロン回収・破壊法」に基づく第一種フロン類回収業登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。これらの回収量は、約33t(2011年3月現在累計)にもおよびます。

■フロン回収量



物流での取り組み

●資材調達時の取り組み

取引先さまと共同して資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、通箱化を進めています。また、緩衝材などは、社内で再使用する取り組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

●製品輸送時の取り組み

地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を始めています。大阪を起点に、北海道、東北、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。関係各社のご協力のもと2010年度の1年間で約18t相当、累計で約83t相当のCO₂削減効果を得ることができました。

事業所での取り組み

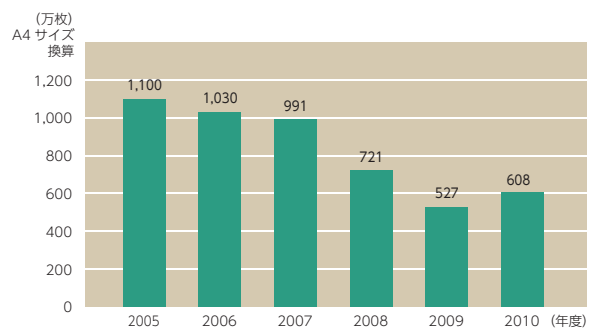
●ゼロエミッションへの挑戦

各事業所におけるゼロエミッション(リサイクル率99%以上)を目指しています。2011年3月現在、全22事業所のうち、約8割にあたる18事業所においてゼロエミッションを達成しました。全事業所における平均リサイクル率は99.5%に達しています。

●事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取り組んでいます。2010年度も、使用済み用紙の活用や、製品の取扱説明書のCD-ROM化の定着を推進しましたが、受注増や新製品開発の影響などにより、事務用紙の購入量は608万枚となり、2009年度の527万枚から約81万枚(15%)の増加となりました。

■事務用紙購入量



●社有車のガソリン削減

社有車の使用に伴うCO₂の排出量は全体の約2割を占めています。公共交通機関の利用、社有車の低燃費車への切り替え、車両タイヤ圧の点検などは継続していますが、2010年度は受注増などにより走行距離が増えたため、ガソリン・軽油総使用量は388klと、2009年度の374klから14kl(3.7%)の増加となりました。

グリーンマインド (環境教育)

環境を守り、より良いものにしていくためには、社員一人ひとりが環境のことをよく理解することが重要です。エスペックでは、自然の大切さを知り、守る心を育てる環境教育に取り組んでいます。

環境啓発活動

環境関連行事の開催を通じて、
社員の環境啓発に取り組んでいます。

エスペック環境ウィーク

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的として、1997年以来、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境ウィーク」に設定しています。全従業員、取引先さま、ならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わるさまざまな取り組みを行っています。

2010年度は、全社環境大会の開催および、「環境改善提案」、「環境写真コンテスト」などの各種表彰や地域清掃活動などを実施しました。

- エスペック環境ウィーク2010年度上位入賞者作品は32ページに掲載

全社環境大会

環境啓発の一環として「エスペック環境ウィーク」に、全社環境大会を開催しています。2010年度は、従業員および主要な取引先さまの方々、約100名が参加し、社長よりエスペックの製品・サービスを機軸とした環境経営についての発表と、外部講師による講演を行いました。



全社環境大会

環境社会検定試験 (eco検定) の取得奨励

幅広い知識をもって環境問題に取り組む人づくりを目的としたeco検定の取得を奨励しています。2010年度は管理職の約75%、全従業員の約25%が合格しています。

エスペックの森

神戸R&Dセンター内の「エスペックの森」は、幼苗植栽手法により土地本来の自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。2001年の植樹祭からこれまでに約31,000本の苗木を植樹しました。2010年度には年間103t相当のCO₂を吸収する森に成長しました。



神戸R&Dセンター／定点観測

ビオトープを楽しむイベントの開催

神戸R&Dセンター内にあるビオトープ(生物生息空間)は、神戸市本来の自然生態系が形づくられています。2010年度の「ビオトープを楽しむイベント」には、社員とご家族、地域の方々の148名にご参加いただき、自然との共生や環境保全について学んでいただきました。小学生を対象としたエコバスツアーでは、神戸R&Dセンター内のエスペックの森やビオトープの見学と、環境試験(-30℃)体験実験を行いました。今後もビオトープを環境啓発の場として活用していきます。



当社の環境試験装置内(-30℃)で濡れたタオルを使った体験実験

ビオトープでの自然とのふれあい

グリーンアクション (社会貢献)

エスベックは、公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」の設置など広く環境啓発・貢献活動を推進しています。

WEB | エスベック地球環境研究技術基金・当社企業活動に対する評価・エスベック みどりの学校

社外における環境啓発・貢献活動

地球環境保全に関する
学術研究の支援活動を行っています。

公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」

創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置しました。

地球環境保全に関する調査研究や技術開発、緑化の教育・啓発などに対し、資金援助を実施しており、これまでに125団体に対し、総額6,460万円の助成を行いました。2010年度は、応募数42件の中から、16件のテーマについて助成しました。



第13回公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」授与式

■ 研究テーマの紹介 (16テーマより抜粋)

- 1 二酸化炭素とバイオマスを原料とした人工光合成型ソーラー燃料生成系に関する研究
- 2 ベトナム・ハノイにおける廃棄物処分場周辺の農耕地土壌の保全と安全な食料生産環境の創造
- 3 緑化植物コマツナギ(indigofera pseudotinctoria)の緑化輸入個体の在来個体群への影響
- 4 木質バイオマス有効利用と経済的持続性の観点からみた循環システム構築
- 5 地球温暖化が亜熱帯海草群落の炭素固定能力に与える影響
- 6 自然エネルギーのみによる海水の淡水化と汚水の純化に関する研究

社外からの評価

積極的な環境への取り組みが
高く評価されています。

環境経営度調査

日本経済新聞社主催の「2010年度環境経営度調査」で、63位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。2010年度は、生産拠点のゼロエミッション達成や、製品・サービスに定量的目標を設定し環境対策を進めていることが高く評価され、2009年度の70位から順位を上げる結果となりました。

■ 環境経営度調査実績

| 年度 | ランク |
|--------|------|
| 2010年度 | 63位 |
| 2009年度 | 70位 |
| 2008年度 | 101位 |
| 2007年度 | 86位 |
| 2006年度 | 154位 |

「大分県緑のカーテンコンテスト

部門賞・事業部門」の受賞

2010年11月、エスベック九州株式会社 大分支社は、大分県緑のカーテンコンテストにおいて、部門賞を受賞しました。「エスベックみどりの学校」の受講生が社外から評価されるまでになりました。



● 最近の受賞歴

- 2010年6月 兵庫県電力利用合理化推進協議会 会長賞
- 2009年6月 兵庫県環境にやさしい事業者賞
- 2009年5月 日本ビオトープ協会顕彰委員長賞

エスペック環境ウィーク 2010 年度上位入賞者作品

エスペックでは、2008年度から環境川柳・写真・ポスターコンテストなどを実施。従業員はもとより、取引先さまやそのご家族からもご応募いただいています。

環境川柳部門 テーマ：種の保全／森づくり

- 優秀賞 **メダカ捕り 我が子を忘れて 父夢中**
- 優秀賞 **苗木植え 大きくなれよと 空を見る**
- 優秀賞 **植林の 中で一息 森林浴**

- 高橋 信さん 株式会社誠工社 総務部
- 岩城 孝史さん 有限会社アルファーだんねつ
- 平根 孝人さん エスペック株式会社 東日本ブロック宇都宮FEG

環境写真部門 テーマ：身近ないきもの

大賞



「蜜の香り」

平野 岳志さん
エスペック株式会社
内部統制評価グループ
平野 等さんのご家族

優秀賞



「巢立ちの田園」

高橋 信さん
株式会社誠工社
総務部

優秀賞



「青鷺」

松隈 修さん
エスペック株式会社
製品開発部 開発企画グループ

優秀賞



「招かざる客」

池田 賢一さん
エスペック株式会社
生産技術部 生産技術グループ

環境ポスター・絵はがき部門 【ポスター】 テーマ：地球温暖化／資源循環／汚染の防止／生物多様性の保全

大賞



「泉の家族」

森田 訓行さん
エスペック株式会社
生産技術部 製品技術グループ

優秀賞



「温暖化防止」

四方 かなみさん
エスペック株式会社
資材部 資材物流グループ
四方 浩昭さんのご家族

優秀賞



「HELP!」

堀井 葵さん
エスペック株式会社
経営戦略部 経営企画グループ
堀井 宏樹さんのご家族

環境ポスター・絵はがき部門 【絵はがき】 テーマ：地球温暖化／資源循環／汚染の防止／生物多様性の保全

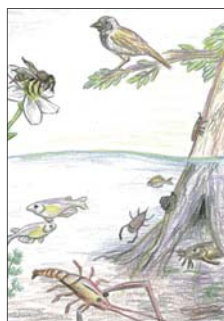
大賞



「今年も緑のカーテン作ります」

四方 涼さん
エスペック株式会社
資材部 資材物流グループ
四方 浩昭さんのご家族

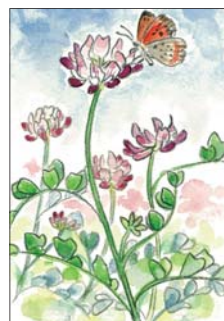
優秀賞



「最近見かけなくなった生物」

川勝 一正さん
株式会社精和工業所
第2製造部

優秀賞



「れんげ畑」

柏村 文路さん
株式会社精和工業所
資材部

優秀賞

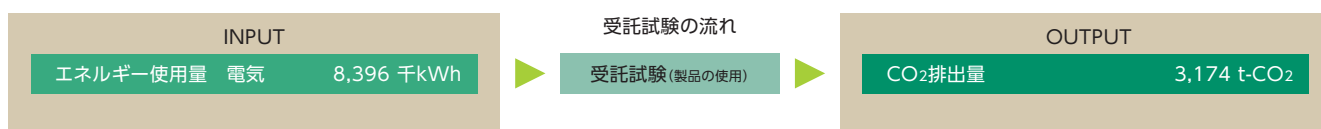
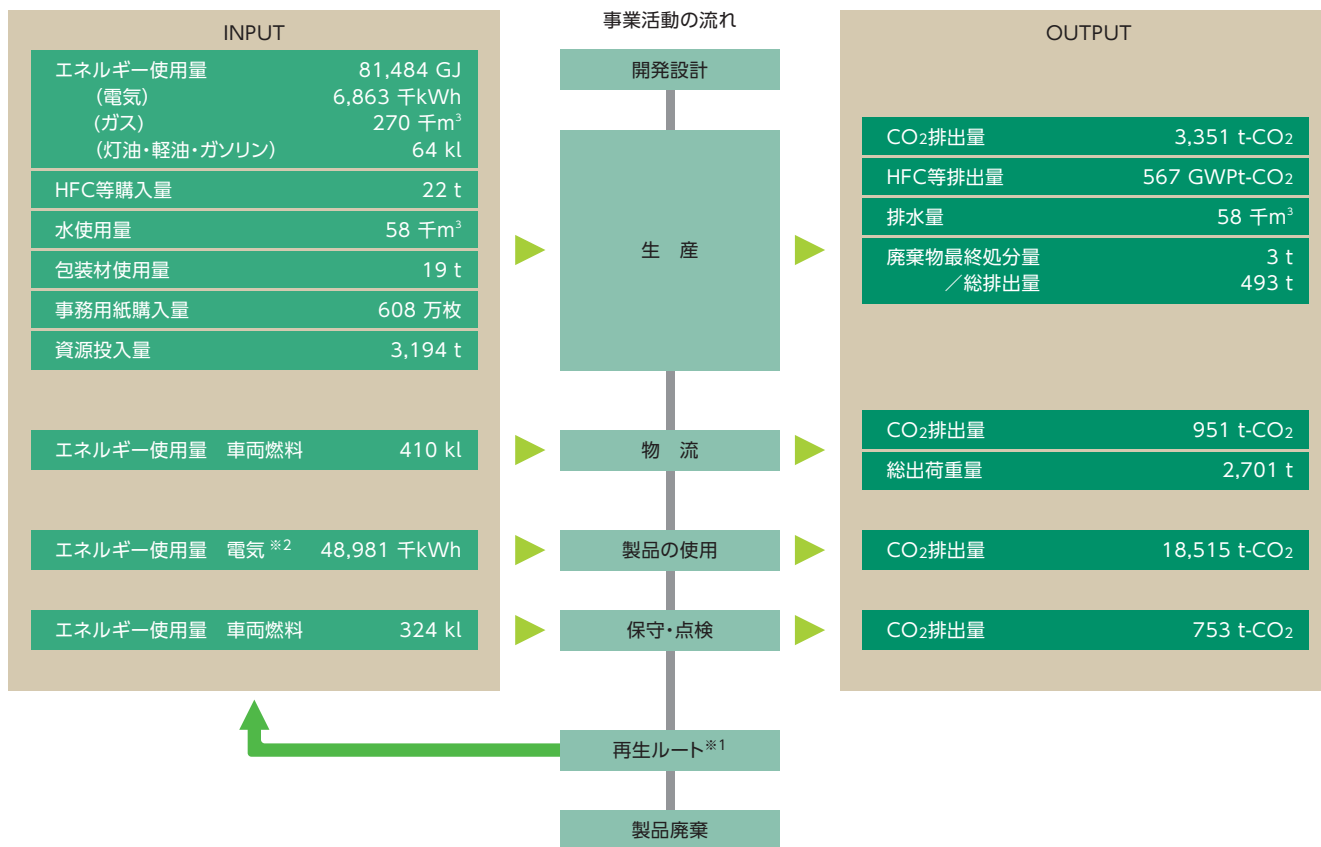


「アースくん」

垣内 賢一さん
アバンテ都島株式会社
守口営業所

事業活動のマテリアルバランス

■ 2010年度実績



※1 エスパック製品リサイクルサービス
※2 製品の使用に伴うエネルギーの使用は2010年度主力製品出荷実績からの試算

■ 算出根拠

| 換算係数 | 熱量換算 | CO ₂ 換算 |
|--------|-------------------------|--|
| ①電力 | 千kWh=9.82GJ | 千kWh=0.378t-CO ₂ |
| ②長田野ガス | 千m ³ =45.0GJ | 千m ³ =2.29t-CO ₂ |
| ③都市ガス | 千m ³ =41.1GJ | 千m ³ =2.11t-CO ₂ |
| ④LPガス | 千m ³ =100GJ | 千m ³ =5.98t-CO ₂ |
| ⑤灯油 | 1kl=36.7GJ | 1kl=2.49t-CO ₂ |
| ⑥軽油 | 1kl=38.2GJ | 1kl=2.62t-CO ₂ |
| ⑦ガソリン | 1kl=34.6GJ | 1kl=2.32t-CO ₂ |

「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

実績データ

■ サイト別データ(2010年度実績)

| | 本 社 | 福知山工場 | 宇都宮 テクノ コンプレックス | 神戸R&D センター | 大阪オフィス | 全国の営業所・ 事業所計 16事業所合計 | 豊田試験所 | ISO14001 一括取得対象 22事業所 |
|--------------|--|------------------------|---|-----------------------|---|---|----------------|-----------------------------|
| 地域区分 | 商業地域 | 工業専用地域 | 工業専用地域 | 準工業地域 | 準工業地域 | — | — | — |
| 主な業務・生産物 | 環境試験装置・ 電子デバイス装置 の販売、開発、設計 ならびに資材・ 部品の購買業務 | 環境試験装置・ 電子デバイス装置 | 環境試験装置・電子 デバイス装置等の販売、 メンテナンス(点検・保守) 受託試験 製品レンタル | 技術開発拠点 および受託試験 | 環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守) | 環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守) | 受託試験 製品レンタル | — |
| 排出物の発生量(総量)※ | 16.1 t | 382.8 t | 2.7 t | 11.3 t | 15.9 t | 62.9 t | 1.5 t | 493.2 t |
| 産業廃棄物量 | — | 78.3 t | 2.0 t | 9.0 t | 6.3 t | 48.2 t | — | 143.7 t |
| 事業系一般廃棄物量 | 15.8 t | 54.5 t | 0.7 t | 0.6 t | 1.3 t | 5.8 t | 1.3 t | 79.9 t |
| 有価物 | 0.2 t | 249.0 t | 0.1 t | 1.8 t | 7.6 t | 8.4 t | — | 267.0 t |
| 電力 | 588 千kWh | 4,060 千kWh | 3,262 千kWh | 2,752 千kWh | 156 千kWh | 280 千kWh | 4,160 千kWh | 15,259 千kWh |
| 事務用紙購入量 | 258 万枚 | 211 万枚 | 9 万枚 | 26 万枚 | 30 万枚 | 67 万枚 | 7 万枚 | 608 万枚 |
| ガス使用量 | 48,441 m ³ | 169,017 m ³ | — | 50,180 m ³ | 25 m ³ | 2,017 m ³ | — | 269,680 m ³ |
| 社有車保有台数 | 5 台 | 6 台 | 17 台 | 3 台 | 26 台 | 200 台 | 3 台 | 203 台 |
| うち、ハイブリッドカー | 1 台 | 2 台 | 4 台 | 1 台 | 3 台 | 22 台 | 1 台 | 23 台 |
| 燃料使用量(ガソリン) | 16 kl | 5 kl | 27 kl | 3 kl | 40 kl | 294 kl | 2 kl | 388 kl |
| 走行距離 | 203,572 km | 90,704 km | 312,742 km | 47,951 km | 506,564 km | 2,778,535 km | 40,485 km | 3,980,553 km |
| 順法への対応 | 適合 | 適合 | 適合 | 適合 | 適合 | 適合 | 適合 | 適合 |
| 地域からのクレームなど | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし |

※ お客さま先での作業時発生分を含む

■ 2010年度 全社PRTR実績

(単位:t)

| 第1種指定化学物質の名称 | トルエン | ヒドラジン | メチルナフタレン |
|---------------------|--------------------------|-------|----------|
| 第1種指定化学物質の番号 | 227 | 253 | 438 |
| 年間取扱量 | 0.0304 | 0.04 | 0.02 |
| 製品への含有分(自主測定項目) | — | — | — |
| リサイクル分(売却分)(自主測定項目) | — | — | — |
| 排出量 | イ) 大気への年間排出量 | 0.02 | — |
| | ロ) 公共用水域への年間排出量 | — | — |
| | ハ) 当該事業所における土壌への排出 二) 以外 | — | — |
| | ニ) 当該事業所における埋立処分 | — | — |
| 移動量 | イ) 下水道への移動 | — | 0.04 |
| | ロ) 当該事業所の外への移動 イ) 以外 | 0.012 | — |

環境会計

■ 2010年度環境会計

集計範囲：エスベック株式会社

対象期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

■ 環境保全コスト

(単位:千円)

| 分類 | 主な取り組みの内容 | 2009年度 | | 2010年度 | |
|--|---------------|--------|---------|--------|---------|
| | | 投資額 | 費用額 | 投資額 | 費用額 |
| (1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト) | | 12,516 | 32,748 | 9,450 | 32,760 |
| 内訳 | ①公害防止コスト | — | 713 | — | 230 |
| | ②地球環境保全コスト | 11,150 | 24,566 | 9,450 | 22,647 |
| | ③資源循環コスト | 1,366 | 7,469 | — | 9,882 |
| (2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト) | | — | — | — | — |
| (3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト) | ISO14001運用経費 | — | 57,818 | — | 87,368 |
| (4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト) | 環境配慮型製品・技術の開発 | — | 492,050 | — | 661,574 |
| (5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト) | | — | 13,972 | — | 5,577 |
| (6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト) | | — | — | — | — |
| 合計 | | 12,516 | 596,588 | 9,450 | 787,279 |

(単位:千円)

| 項目 | 2009年度 | 2010年度 |
|---------------|---------|-----------|
| 当該期間の投資額の総額 | 241,720 | 1,752,416 |
| 当該期間の研究開発費の総額 | 845,705 | 1,073,827 |

■ 環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

| 効果の内容 | 金額 |
|-------|--------------------------|
| 収益 | リサイクルにより得られた収入額 7,344 |
| 費用削減 | 省エネルギーによる費用削減 -125 |

■ 環境保全効果

| 効果の内容 | 環境保全効果を表す指標 | | |
|--------------------------------|-------------------|--------|--------|
| | 指標の分類 | 指標の値 | |
| (1) 事業活動に投入する資源に関する効果 | 電力の使用 | 2009年度 | 2010年度 |
| | 発生総量(千kWh) | 5,867 | 5,876 |
| | 削減量(対前年比)(千kWh) | 1132.5 | -8.3 |
| | 原単位(千kWh/億円) | 36.8 | 26.1 |
| | 原単位での削減率(対前年比)(%) | -34.5 | 29.1 |
| (2) 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果 | 廃棄物の排出 | 2009年度 | 2010年度 |
| | 発生総量(t) | 2.6 | 2.5 |
| | 削減量(対前年比)(t) | 6.2 | 0.1 |
| | 原単位(kg/億円) | 16.3 | 11.1 |
| | 原単位での削減率(対前年比)(%) | 52.6 | 31.9 |
| | 売上高(単純合算)(億円) | 159.3 | 224.9 |

注1. -付きの値は増加分

注2. 電力は、生産部門+事務所電力の合計

注3. 廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

注4. 2009年度の売上高は、エスベック株式会社とエスベックエンジニアリング株式会社の単純合算

会社概要 (平成23年3月31日現在)

| | |
|---------|----------------------------|
| 創業 | 昭和22年(1947年)7月25日 |
| 設立 | 昭和29年(1954年)1月13日 |
| 資本金 | 68億9,500万円 |
| 証券市場 | 東京証券取引所 第一部 大阪証券取引所 第一部 |
| 発行済株式総数 | 23,781,394株 |
| 従業員数 | 1,298名(連結) 865名(単独) |

営業概況 (平成23年3月期)

| | (単位:百万円) | |
|-------|----------|--------|
| | 連結 | 単独 |
| 売上高 | 29,589 | 22,490 |
| 営業利益 | 1,391 | 915 |
| 経常利益 | 1,683 | 1,542 |
| 当期純利益 | 1,654 | 4,280 |
| 総資産 | 37,905 | 34,242 |
| 純資産 | 27,580 | 26,644 |

事業所 (平成23年4月1日現在)

本社

530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500

首都圏オフィス

105-0004 東京都港区新橋5-14-10
新橋スクエアビル6F

Tel:03-6402-3591 Fax:03-6402-3594

大阪オフィス

572-0072 大阪府寝屋川市太間東町15-8
Tel:072-834-1191 Fax:072-834-7755

宇都宮テクノコンプレックス

321-3231 宇都宮市清原工業団地2-1
Tel:028-667-8730 Fax:028-667-8733

神戸R&Dセンター

651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5
Tel:078-951-0960 Fax:078-951-0967

福知山工場

620-0853 京都府福知山市長田野町1-7
Tel:0773-27-3131 Fax:0773-27-1132

仙台営業所

981-3135 仙台市泉区八乙女中央2-2-22
Tel:022-218-1891 Fax:022-218-1894

つくば営業所

305-0035 茨城県つくば市松代1-11-10
Tel:029-854-7805 Fax:029-854-7785

熊谷営業所

360-0833 埼玉県熊谷市広瀬240-3
Tel:048-520-2360 Fax:048-525-7865

西東京営業所

186-0011 東京都国立市谷保6049
Tel:042-501-2571 Fax:042-501-2573

静岡営業所

422-8036 静岡県駿河区敷地2-26-10
Tel:054-237-8000 Fax:054-238-3441

名古屋営業所

465-0095 名古屋市名東区高社2-250
Tel:052-777-2551 Fax:052-777-2575

金沢営業所

920-8203 金沢市鞍月3-115
Tel:076-268-1891 Fax:076-268-1893

滋賀営業所

520-3234 滋賀県湖南市中央1-44-1
市兵衛ビル1F
Tel:0748-72-5077 Fax:0748-72-5070

広島営業所

731-0103 広島市安佐南区緑井1-12-25
Tel:082-830-5211 Fax:082-876-5050

福岡営業所

812-0006 福岡市博多区上牟田1-28-16
コスモブレインビルE室
Tel:092-471-0932 Fax:092-474-3500

東京サービスプランチ

146-0083 東京都大田区千鳥1-11-4
Tel:03-3752-8601 Fax:03-3752-8625

厚木サービスプランチ

259-1117 神奈川県伊勢原市東成瀬36-5
Tel:0463-94-9433 Fax:0463-94-6542

津サービスプランチ

514-0104 津市栗真小川町620
Tel:059-233-5400 Fax:059-233-5411

兵庫サービスプランチ

674-0051 兵庫県明石市大久保町大窪926-1
Tel:078-938-1913 Fax:078-938-1914

新居浜サービスプランチ

792-0812 愛媛県新居浜市坂井町1-1-32
Tel:0897-31-3160 Fax:0897-36-3180

宇都宮試験所

321-3231 宇都宮市清原工業団地2-1
(宇都宮テクノコンプレックス内)
Tel:028-667-8735 Fax:028-667-8738

豊田試験所

471-0844 愛知県豊田市聖心町3-44-1
Tel:0565-25-3364 Fax:0565-25-3365

刈谷試験所

448-0034 愛知県刈谷市神明町1-3
Tel:0566-62-8380 Fax:0566-62-8385

神戸試験所

651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5
(神戸R&Dセンター内)
Tel:078-951-0961 Fax:078-951-0967

エスベックグループ〈国内〉

(平成23年4月1日現在)

エスベックテクノ株式会社

658-0053 神戸市東灘区住吉宮町5-10-18
Tel:078-811-3211 Fax:078-841-8329

エスベック九州株式会社

802-0062 北九州市小倉北区片野新町2-6-15
Tel:093-941-1731 Fax:093-921-2822

エスベックミック株式会社

480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂1-233-1
Tel:0587-95-6369 Fax:0587-95-4833

エスベックグループ〈海外〉

(平成23年4月1日現在)

ESPEC NORTH AMERICA, INC. (アメリカ)

4141 Central Parkway, Hudsonville, MI 49426, U.S.A.
Tel:(1) 616-896-6100 Fax:(1) 616-896-6150

ESPEC EUROPE GmbH (ドイツ)

Dachauer Strasse 11, D-80335, München, Germany
Tel:(49) 89-1893-963-0 Fax:(49) 89-1893-963-79

SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL

EQUIPMENT CORP. (中国)

1518 Hao, Hua xin Zhen Hua zhi Road, Qing pu Qu,
Shanghai, 201708, P.R. China
Tel:(86) 21-69791178 Fax:(86) 21-69791213

GUANGZHOU ESPEC ENVIRONMENTAL

EQUIPMENT CO., Ltd. (中国)

Yongfa Avenue 6, Huadu Qu, Guangzhou,
Guangdong-province, 510800, P.R. China
Tel:(86) 20-86881537 Fax:(86) 20-86881530

ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT

(SHANGHAI) CO., LTD. (中国)

F5, ShenHua Financial Building, NO 1 NingBo Road,
Huangpu District Shanghai, 200002, P.R. China
Tel:(86) 21-51036677 Fax:(86) 21-63372237

ESPEC TEST TECHNOLOGY

(SHANGHAI) CO., LTD. (中国)

Room 106, Building 8, No. 3000 Longdong Avenue,
Pudong New Area, Shanghai 201203, P.R. China
Tel:(86) 21-68798008 Fax:(86) 21-68798088

ESPEC (CHINA) LIMITED (香港)

Suite 618, 6th F, Ocean Centre, Harbour City,
Kowloon, Hong Kong
Tel:(852) 2620-0830 Fax:(852) 2620-0788

ESPEC KOREA CORP. (韓国)

452-3, Hyeongok-Ri, Chongbuk-Myeon,
Pyeongtaek-City, Gyeonggi-do 451-831, Korea
Tel:(82) 31-686-8523 Fax:(82) 31-686-8526

ESPEC SOUTH EAST ASIA

SDN. BHD. (マレーシア)

No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai
Besi Indah, 43300, Seri Kembangan,
Selangor Darul Ehsan Malaysia
Tel:(60) 3-8945-1377 Fax:(60) 3-8945-1287

■ CSRレポート企画・編集発行

エスベック株式会社 経営戦略部 ブランド企画グループ
CSRレポート編集委員会

■ CSRレポートについてのお問い合わせ窓口

エスベック株式会社 総務人事部 総務グループ
Tel:06-6358-5005 Fax:06-6358-6382
E-Mail:csr@espec.co.jp

エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500
<http://www.espec.co.jp/>

未来が変わる。日本が変わる。
チャレンジ 25

エスペックは地球温暖化防止国民運動、
チャレンジ25キャンペーンに参加しています。

